

自主企画商品



韓国製の自主企画商品のフライパンが並ぶ(ひらせいの新潟市内の店舗)

ひらせいホームセンター まずフライパンなど

新潟県内を中心に展開する、ひらせいホームセンター(新潟市、清水泰明社長)は、商社を介さずに直接輸入した自主企画の商品の販売に乗り出した。国内の大手小売会社からの受注減に悩むタイや韓国などの業者を生産委託先として確保。第1弾としてペットフードとフライパンを商品化した。買値の低価格志向に対応し、顧客を取り込むのが狙いだ。

ペットフードはタイ製。魚介類を使ったキャットフードなど商品を生産する予定だ。

知事、交渉相手は国 JRと話すことでない

越前駅問題

東日本旅客鉄道(JR東日本)の清野社長が北陸新幹線の上越駅(仮称)の全列車停車について否定的な見方を示した。これについて、新潟県知事は「(新幹線)の建設のスキームを作ったのは国(鉄道・運輸機構)がお金を徴収している」と話した。全列車停車の実現に向けて、国や建設主体の鉄道建設・運輸施設整備支援機構と交渉していく姿勢を明らかにした。

8日に清野社長が「(上越駅に)すべての新幹線が止まる」ということは現時点で考えていない」と発言。新潟県が求める全列車停車が困難との見方を示していた。

撤退後も店舗利用を 大和跡地 商店街、新潟市に協力要請

百貨店の大和が新潟市問題で、新潟市は9日、中心部から来年撤退する空洞化の懸念が高まる市

ミートコンパニオン十日町工場

食肉加工のミートコンパニオン(東京都立川市)は、冷凍食品や加熱調理品などを手がける新潟第2工場デリカセンター(新潟県十日町市)に新しいボイラーを導入した。産業廃棄物だった脂を使うのが特徴で、環境ベンチャーのグリーンエナジー(十日町市)が技術協力した。工場内の経費を減らし、二酸化炭素(CO₂)の排出も抑える試みだ。

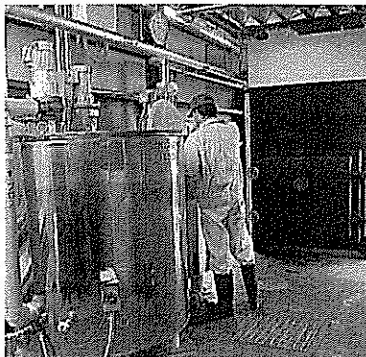
産廃油脂活用へ 新ボイラー導入

デリカセンターは2005年に稼働した。稼働率が上がっていくと、問題点が明らかになってきた。工場内を洗浄する時に出る動物性油脂だ。浄化槽に流れ込んで浮

き上がるこの油。フロス(浮上油脂分)と呼ばれ、年間200ト近く発生する。産業廃棄物として専

経費削減、エコにも一役

門業者に処理を委託していた。地元業者がなく、長岡市内まで運んでいたこともあり、かなり費用がかかっていた。



昨年春、十日町市からグリーンエナジーのバイオマスボイラーの紹介を受けた。高野直人センター長は「今まで処理費用を払っていたが、逆にフロスをすべて自社のエネルギー源として活用できる」と判断。このボイラーを導入すれば工場内の経費削減のほか、近隣へ

を払っていたが、逆にフロスをすべて自社のエネルギー源として活用できる」と判断。このボイラーを導入すれば工場内の経費削減のほか、近隣へ

高野センター長によると、産廃処理費がゼロとなり、重油の使用量も減る。このため含水率を下げてフロスを燃料にする「県内の他の食品工場にも広めたい」と意気込んでいる。

DC、長野にバトン

JR東、19日にリレー号

JR東日本新潟支社は19日、新潟で開催中の大型観光企画「デスティネーションキャンペーン(DC)」道ファンに人気の高い国鉄リレー号を運行する。長岡駅と、越後川口から飯山線に長野駅から出発した列車が、1両に新潟県の観光飯山線の十日町駅で出合、協会の担当者などが乗車。

十日町駅でセレモニー

もう1両に日帰りバスを購入した乗客32人が乗り込む。11日午後2時から電話予約を開始する。十日町駅に到着後、長岡から来た観光関係者とセレモニーを実施し、長岡駅に戻る。日帰りバスには乗車券と国鉄気動車の写真が載った掛け紙付き弁当がセットになっており、往復で3500円。

出品用大吟醸20年古酒

高の井酒造 あすから限定販売

高の井酒造(新潟県小千谷市、山崎社長)は、11日から、1989年に醸造した大吟醸「二十年の眠り」を限定販売する。全国鑑評会に出品したものと同一原酒をセ氏マイナス2度の低温倉庫で20年間貯蔵し、熟成させた。贈答品として需要を見込む。



比べて、味わいも一層まろやかに仕上がっている。アルコール分は17度で、精米歩合40%にした「山田錦」を原料米に使った。希望小売価格は500円(税別)。限定販売する110本のうち、県内は30本になる予定。

2010年夏からは、インドネシアで生産した軍手や傘などの雑貨を販売する予定だ。自主企画商品を生産するの糸口を探るとみられる。

長岡技術科学大学(新潟県長岡市)は、今年が2回目の。今年の商品は昨年に目。長岡の「N」の字をかたどったもの。常にしなやかで時代に敏感な鋭い発想を持ち、愛情と情熱を持って地球環境を考へる大学を表現したいという。